

# Le Houngaku Hijiri-Kai

邦楽聖会  
伝統と刷新  
第19回東京公演

[主催] 邦楽聖会  
福田輝久(尺八)  
杵屋子邦(三味線・唄)

[助演] 林美音子(箏・唄)

[顧問] 丹波明



Teruhisa Fukuda



Shiho Kineya



Mineko Hayashi



Akira Tamba

東京オペラシティ  
リサイタルホール

2016.10月28日[金]

19:00開演(18:30開場)

入場料・全席自由:  
一般4,000(当日4,500)円  
学生2,000円

- 後援: 社団法人日本作曲家協議会  
日本現代音楽協会  
アルピオンアート株式会社
- 協賛: サン・テコール邦楽スタジオ

助成: アーツカウンシル東京  
(公益財団法人東京都歴史文化財団)



●お問い合わせ・電話予約  
03-5353-9999  
(東京オペラシティ・チケットセンター)  
03-3314-1083 (邦楽聖会福田)

交通案内: 京王新線初台東口/  
都営新宿線相互乗り入れ 新宿より2分  
B2Fパーキング: 山手通り/水道道路/甲州街道より入場

groupe des  
sages  
vol.19



## Program

聖調/阿字観/尺八

新砦/三味線

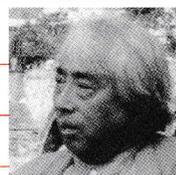
アルファ/宮川 渉(初演)



Wataru Miyakawa



Masao Endo



Koji Izumi

〈枕詞と、あいの詠〉尺八と三絃のために/遠藤雅夫(初演)

〈尺八と三絃のための「銀の河」〉和泉耕二(初演)

音の干涉第十番 尺八、三味線、箏の為の/丹波明(初演)



福田輝久 Teruhisa Fukuda [尺八]  
杵屋子邦 Shiho Kineya [三味線]



■丹波明 Akira Tamba [邦楽聖会 顧問]

■邦楽聖会 Le Hougaku Hijiri-Kai (groupe des sages)

2000・2001年と和泉耕二作曲作品展がパリ、SALLE CORTOT, UNESCO SALLE I にて開かれた折、丹波明氏に会う。氏については30代半ば同年代の作曲家等から聞かされていたのであるが… 後になり氏の山荘が私の生まれ故郷長野県諏訪にあり、夏には我が家の近所に度々訪れるなど、パリよりの出会いに因縁を感じつつ今日に至る音楽活動を共にさせていただいている。

上記公演の折フランス人尺八演奏家Daniel LIFERMANNと彼のグループLa Voie du Bambouのメンバー達とも交流し始め、指導や共演を行ってきた。Latilly、Montbrun、会員のアトリエでの尺八マスタークラス。彼らの尺八音楽に対する探求心、日本文化への憧憬には目を見張る。東日本大震災の折も大変な心配やチャリティーコンサートも催し感謝にたえない。

2002年邦楽聖会を結成。丹波明氏を音楽監督に迎え尺八・三味線・箏による三曲演奏グループとし、“伝統と刷新”をテーマに伝統音楽の紹介をしつつ、現代の作曲家により創造され刷新される作品を披歴。日本・フランスを中心に活動する。

現代作曲家作品は新旧含め、Henri POUSSEUR、丹波明、篠原真、松永通温、浦田健次郎、杵屋正邦、土居克行、遠藤雅夫、和泉耕二、金田潮兒、野平一郎、寺嶋陸也、角篤紀、伴谷晃二、宮川渉、各氏を採り上げている。

私たちの為協力を惜しまぬ多くの作曲家に感謝し、また聴衆の皆さまの応援を頂きこの活動が継続する。

近況は2015年暮Radio Television SUISSにて尺八本曲レコーディングUn musée Ville de Genève 仏教のジャポニズム、公演 Atelier de La Main d'Or Paris、Shakuhachi master class、2016年中国廈門、福州に於ける作曲家陳明志作品展及び日本伝統音楽講習会と指導、La Voie du Bambou 主催尺八講習会Fr, Villars Sontenoge, 中国Zhuhai公演。

作曲家。1932年生まれ。東京芸術大学作曲科卒業後、60年フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に入学しO.メシアンに師事。作曲で一等賞、楽曲分析で二等賞、リリール・ブーランジェ賞、ティヴォンヌ・レ・バン作曲賞等を受賞。

64-67年フランス国立放送研究所にて具体音楽研究に従事。68年フランス国立科学研究所哲学(美学)科に入り、98年主任研究員に就任。70年以降、作曲、音楽学の2分野で活躍している。作曲家としては多くの音楽祭で作品を発表。とくに20年フランス国立放送により「丹波明の一日」が放送され、同年オランダ現代音楽祭では10作品が演奏された。

CDとしては、ピアノ協奏曲《曼荼羅》、チェロ協奏曲《オリオン》などが収録されたREM11321、弦楽四重奏曲《タサター》、電気ギター協奏曲《エリオードウ》等が収録されたREM-311338があり、その一端を知ることができる。

音楽学の分野では、71年『能音楽の構造』によりソルボンヌ大学より音楽博士号、日本翻訳家協会文化賞、84年『日本音楽理論とその美学』により同大学よりフランス国家博士号を授与される。

日本で出版された著書には『創意と創造』『序破急という美学』(音楽之友社)がある。

# Le Hougaku Hijiri-Kai

groupe des sages vol.19



**TERUHISA FUKUDA**

**Shakuhachi (école Kinko)**

Une certaine idée de la sérénité. La musique de la flûte en bambou shakuhachi, ondoyante et lumineuse, tout en retenue, en secrets murmurés, possède des vertus époustouflantes. Dans ces phrases enveloppantes, ces frissons de notes et la densité de ces silences, court un vent profondément apaisant. Celui qui le fait souffler s'appelle Teruhisa Fukuda. S'il a créé récemment une école à Nagano, dans la région montagneuse où il est né en 1949, lui-même s'est formé sans maître, contrairement à la plupart des musiciens traditionnels japonais. Une autonomie qui lui a permis de développer rapidement un style personnel dans l'interprétation de son répertoire de prédilection, celui de l'école Kinko, établi au XVIII<sup>e</sup> siècle par Kinko Kurosawa, l'un des maîtres de la secte Fuke du bouddhisme zen à Edo (l'actuelle Tokyo). Les six pièces traditionnelles réunies dans cet enregistrement réalisé par Radio France à Paris sont considérées comme les plus représentatives de cette école. — P. La.

1 CD Ocora/Harmonia Mundi.

CD & Book Information



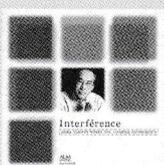
■Teruhisa Fukuda  
Shakuhachi Banquet  
1992 North Pacific Music  
福田輝久



■Ecole Kinko  
2003 RADIO FRANCE OCORA  
福田輝久



■ESPRITS ANIMAUX  
エスプリ・ザニモオ  
1995 ALM ALCO-9005  
福田輝久 尺八ソロ



■音の干渉  
丹波明作品集  
—邦楽者のための—



■日中語による尺八ガイドブック  
尺八指南事  
—オリジナル曲を含め—  
福田輝久 著・画 (A4版・94頁)  
定価¥2,000

## 〈演奏会のご案内〉

演奏会のご案内です。今月、10月28日（金）、和泉耕二「銀の河／星と修羅」～尺八と三味線のために～の委嘱作品初演をいたします。

公演タイトルおよび内容等については以下の通りです

### 〈邦楽聖会／伝統と刷新 第19回東京公演〉

**日時：10月28日（金）19：00開演（18：30開場）**

**場所：東京オペラシティ リサイタルホール（京王新線初台東口）**

この演奏会は、日本有数の尺八奏者、福田輝久氏と三味線奏者、杵屋仔邦氏を中心とする現代邦楽の会で、当日は京都在住の柳川三味線のスペシャリスト、林美音子氏も琴・唄で特別参加されます。

日頃、洋楽に慣れ親しむことの多い私たちですが、尺八が醸し出す孤高で幽玄かつドラマティックな世界と、艶やかさ、雅さにおいて格別な表現力をもつ三味線、琴の音に出会うことで、皆様に、日本の伝統楽器の良さをあらためて味わっていただけるものと思っております。

拙作品「銀の河／星と修羅」についてですが、副題〈星と修羅〉という言葉は、河合隼雄氏（心理学者、元文化庁長官）からお借りしたもので、この言葉について河合氏は、おおよそですが次のように記されています。

〈賢治を理解するためには、賢治の星の側面と修羅の側面を知らなければならぬ。で、星とは、賢治が星にまつわる童話、例えば「よだかの星」「双子の星」「おきなぐさ」もちろん「銀河鉄道の夜」などを書いた人としての側面、「修羅」とは、賢治の言葉を借りれば「大海の底に居り、鬨諍を好む悪神である」という側面。私たちは、賢治について「透明感に溢れたピュアな天の人」の側面だけで理解しがちだが、賢治をほんとうに理解するためには、彼が「星」と「修羅」の両面を持ち合わせていることを知らなければならない、その両面で見ないと賢治の深さに至らない〉と。

拙作品「銀の河」は、この「星と修羅」が楽曲創造の源になっております。もし、お聴きいただけます場合、その際の参考にでもしていただければ大変嬉しく存じます。

和泉耕二